令和４年度第３回 徳島県スポーツ推進審議会　議事録

Ⅰ　日　時

令和４年１１月１１日（金）　午後１時３０分から午後３時３０分まで

Ⅱ　場　所

徳島県庁１０階　大会議室

Ⅲ　出席者

【委　員】２０名中１３名出席

髙原清秀会長、伊藤典文委員、岡部裕子委員（リモート）、幸田貴美子委員、
小谷敏弘委員、佐伯美千代委員（リモート）、靏真美委員（リモート）、
富山潤一委員、中田恵莉子委員（リモート）、永原レキ委員（リモート）、
村山慎之助委員、吉野誠委員、米本元子委員（リモート）

【事務局】未来創生文化部長、未来創生文化部次長、スポーツ振興課長、
体育健康安全課長、ダイバーシティー推進課長ほか

Ⅳ　内　容

開会

議事

（１）徳島県スポーツ推進計画（答申案）について

（２）その他

閉会

≪配付資料≫

○　第３期徳島県スポーツ推進計画（案）について	資料１
○　第２回徳島県スポーツ推進審議会以降の修正一覧	資料２
○　「徳島県スポーツ推進計画」に係るパブリックコメント実施結果	資料３
○　徳島県スポーツ推進計画（答申案）	資料４

Ⅴ議事録

開会

☆会長

それでは議事に移りたいと思います。まず、事務局より、「議事（1）徳島県スポーツ推進

計画（答申案）について」説明をお願いします。

◆事務局

資料１、２、３、４に基づき説明

☆会長

ただ今、事務局より説明がありました。このことにつきまして、御質問、御意見をお受けしたいと思います。この機会ですので、積極的な御発言をお願いします。

前回までの審議会で各委員からご発言いただきました内容については説明の通り反映されております。答申の成案にむけても最後の機会ですので、それぞれの立場で重複になっても構いませんので、ご発言の方をよろしくお願いいたします。

〇委員

いただいた資料全体を見て、今の修正案ですとか、厳しい言い方かも分かりませんけど絵に描いた餅にならないように。どういうことができるかということに関して我々も出来ることがあれば協力させていただきます。

それとパブリックコメントについて、なかなかアイディアとしてはさすがに広く一般の方の意見ということで、ソックスがついてる３チームを呼んで試合するとかについても非常に僕は面白いと思います。ただ県の方からのコメントでは、要は非常に厳しいっていう、そこを厳しいで終わってしまうと多分何も進まないので、「じゃあどうやったら実現できるのか？」みたいなそういう方向で考えていけば何か打開策があるかもわかりませんし。現実的でないところは確かにあるんですけれども、そういう夢のある意見というのは非常に会自体も活性化していくと思いますし、壁で終わらさないように何かできる施策をみんなで考えて、その結果、違う形で何かできればそれはそれでいいと思います。

◆事務局（スポーツ振興課長）

ただ今、委員の方からパブリックコメントの、例えば三大ソックスの野球親善大会のアイデア等について御意見をいただいているところでございます。非常にいろんなご意見をいただいたところでして、なかなかすぐに実現というのは難しいところも多々あるんですが、せっかくいただいたご意見でございますので、それぞれ実現に向けてどういう風にしていったら実現できるのか、課題は何なのか、それぞれ検証しまして、少しでも実現ができるような方向で検討を進めてみたいと考えておりますので、今後ともいろんなご意見をいただいて、それを県政に反映できるように我々も努力したいと考えております。

〇委員

短期間のうちに計画として見やすい形で整理をされていることを、まず立派だなあと思いました。それからパブリックコメントとか、各方面からの意見を可能な限り吸い上げてここに修正している、反映していることについても高く評価したいというふうに思っております。

私の立場が障がい者関係の代表ということで、出席をさせていただいておりますけれども、要所要所のところでは指導者のことでありますとか、障がい者の方がスポーツをする環境、特に障がい者交流プラザのことについては、機能強化を含めていただいておりますので、こうしたことを土台としてこれからの5年間で前に進めていくことができるかなと考えております。

県全体の大きな計画ですので、あえて申し上げますと、小さいやるべきこと、各論のことがたくさんあるかと思いますけれども、そういった今後の推進体制については引き続きこの審議会がどのような役割を担うのか、今後の個別の推進についてもより多くの知恵・力を集めてくるような形で行っていただけるとありがたいかなと思っております。

先般、10月末～11月最初にかけて「第22回全国障がい者スポーツ大会」の方に県の代表と事務局としても行って参りました。メダル総数もさることながら、やはり障がい者の方が持っている可能性というものを、支援学校の生徒さんや、またずっと好きな卓球を続けてこられた70歳の男性職員のような方、楽しみで始めたフライングディスクとかいろんなスポーツをずっと歳をとっても続けている方々が、いきいきとして競技をしている様子を見ると、障がい者あるいは障がいあるなしにかかわらず一生涯を通じてスポーツをする素晴らしさみたいなものを改めて実感したところであります。

今回のこのスポーツ推進計画の中では、やっぱり多くの人が感動出来る、共有できる一つのベースとして、苦しいことが多い時代環境であるだけに、スポーツ本来の良さというものをより多くの人に体験実感してもらえるような、ムードづくりといったものをこの計画ができたのを機に、より多く広くアピールしてもらえばいいかなと思っております。

ちなみに、障がい者スポーツの部分では全国障がい者スポーツ大会に参加していただいた支援学校の生徒については、常日頃から先生方、教員の方が頑張っておられますので、そういった現場の先生方のご苦労にも感謝をしたいと思いますし、それから送り出していただいた福祉施設、こちらの方では入所者の入所施設でありますと、コロナに関して、もしも派遣をして帰って来たときにどうなるかとか不安な要素も多かったでしょうけれども派遣していただいたこと。また夏場の暑い時に陸上競技のリレー競技400mを100m×４人で、１人女性がいるんですけれども、そこにも生徒さんを発掘してリレーの研修、練習もした上で、400mできるようなこと。こういった感動のエピソードが数々ありますけれども、その裏には指導者の方々とか応援してくださった方々がいるということも改めてこの場でご披露して感謝申し上げたいなと思います。

それと今１つ、やはり、栃木での様子を丁寧に報道していただいたメディアの方にも大変感謝をしたいなと思っております。障がい者スポーツの頑張っている様子、障がい者の方々が輝いている様子を報道していただけると、より多くの県民の方に感動と勇気を与えるそのきっかけになるのではないかなと思っておりますので、ありとあらゆる方々に感謝を申し上げたいなというふうに思っております。話がそれたかもしれませんが以上のようなことでございます。

○委員

私前回、前々回と出席はできていなかったんですが、今、委員がおっしゃったように全般的なことを今後推進していくにあたって、今の実例もあったように、スポーツというのがワクワクする、いいものだっていう事が、せっかくこの計画があるので私たちも分かりやすく伝えていかなければならないし、そういう分かりやすく伝えていく努力というのを今後とも、私たち含めて県の方にもお願いしたいということです。

それとあと１つは、厳しいというか難しいことかもしれませんが、この計画において5年後、一体どういう結果が得られたのか、数字なりそれからこういうことをやったから県民にとってどうだったのか。スポーツコミッションとか、いろんな新しいこともたくさん動いておりますので、それがどうだったのかっていう検証というか、そこを見据えてこの5年間動いていければいいかなというふうに個人としても思いますし、スポーツに関わる皆さんで協力していきたいなという思いを強くしたところです。

○委員

一点、今回のパブリックコメントを受けて修正なさったところに、中学校部活の地域移行に関して「指導者等の育成」の項目を追加されたと先ほどお伺いしました。

学校の部活動では先生がご指導にあたられておいでて、その方がその運動の専門家である場合とそうでない場合、いろいろ形はあろうかと思うんですけれども、それを地域に移行するにあたっては指導される方の存在やスキル、その部分を含めて生徒さんご自身や親御さんがどういう指導者の方に見ていただけるのかなというのは、ものすごく大きな部分かと思います。だからこそ今回、指導者等の育成を加えられたと思うんですけれども、このあたりもう少し、どちらがどのような形で養成されていくのかというところを、現状のイメージ等をお聞かせいただけたらと思います。

例えば、運動部活動指導師のような資格を持って指導に当たっていただくために、そういう講習会等にご参加なさる方々の参加費を助成なさるとか、何かしらそういうふうなイメージでいらっしゃるのか。その辺り分かる範囲で、指導者育成の具体的な方向性みたいなものをお伺いできたらと思うんですが、よろしくお願いいたします。

◆事務局（スポーツ振興課長）

ただ今、委員の方から部活動地域移行に向けた体制について、指導者充実、指導者の存在は非常に大きいと、指導者の養成などをどのようにしていくのかというような方向性について問い合わせいただいたと思います。

現在、部活動改革をどうしていくかということについては、それぞれの市町村もしくは県全体で協議会を設置し、様々な課題について検討を進めていくというようなことをお伺いしております。その中で各市町村それぞれ実情があるとは思いますので、地元からの要望であるとか、それから地元の市町教育委員会の体制の問題であるとか、そういうことで、それぞれケースバイケースで指導者をどう育てていくのかというマッチングなりをする必要があるのかなというふうに、協議会の方からもお伺いしておりますので、協議会を通じて指導者をどういうふうに育てていかないといけないのか、こんな指導者が必要だとか、そういったことの検討を進めていく必要があるものと考えております。

ただ今検討の緒に就いたばかりでありますので、どのような方向性でというのはこれからまた検討を進める中で明らかにしていきたいと考えております。今、協議会立ち上げたばかりですので、それぞれの市町村で、協議会の中で検討していくとお伺いしております。

☆会長

現在検討中というような回答でございました。それぞれの進捗状況につきまして、また続いてこちらの審議会の方にも情報提供いただいたらありがたいと思います。よろしくお願いします。

◆事務局（スポーツ振興課長）

この計画は来年度から５年間の計画でございます。この資料４の中にも書いているのですが、それぞれの施策において目標を掲げております。令和３年度の現状がありまして、令和９年度の目標ということで５年間の目標でございます。毎年この会議の中で、検証といいますか数字はもちろんのこと、先ほど委員からもございましたように、この結果が県民にとってどうなのかと、どういう効果をもたらしているのかというところも含めましてこの審議会の中で検証をしていきたいと考えておりますので、またその時にいろんなご意見を頂戴できたらと思います。

○委員

少し細かいことなんですが、資料４の推進計画の２１ページ目、「ジュニアトップ選手の県外の流出防止に取り組みます」の部分で、優れたジュニア選手だと指導体制の関係で、県内で活動することを諦めたりしないように積極的に体制を整えるということであると思いますが、読み方によってはその流出の防止の部分が閉鎖的な印象を受けるなと私個人で

は思いました。逆に、この競技は力を入れているので県外から優れた選手を受け入れて、それによって周りの選手たちにもその影響が期待できるというようなケースもあるのかなと感じました。そういう選手の受入れを期待するケースについても、２２ページの（２）「新たな有力選手の発掘・育成」というところに含まれていると考えて良いでしょうか。

◆事務局（スポーツ振興課長）

まず資料４の２１ページ。ここに「ジュニアトップ選手の県外への流出の防止に取り組みます」とあります。ここについては、小さい時からスポーツに親しみ、競技力の向上ということでいろんな指導をして、小学校から中学校、高校という流れの中で選手を育成していくと、その課程の中で本人の希望とか指導者、いい指導者を頼って県外に行って先生から指導を受けたいというようなケースもあろうかと思います。当然、その辺りを阻害とかダメとかいうものでは決してないのですが、県内で指導した方についてはできるだけ県内で留まって頂いて、競技を続けていただいて国体をはじめ各種競技会で優秀な成績を収めていただけたらという、県としてそういう体制を作りたいなというふうに考えておるところでございます。

逆に、例えば高校で県外へ行ったとしても、その後何とか徳島県に戻って来てその競技を続けていただくと。県内の競技力向上でありますとか、本人のレベルアップにつなげていただきたいというようなこともやっていきたいと考えているところでございます。

また22ページの「新たな有力選手の発掘・育成」につきましては、全体的に優れた選手については長期的・計画的に育成するシステムを構築する必要があるかと考えております。我々の大きな目標として、国民体育大会での順位向上というようなところがございますが、従来からお家芸と言われている競技、ウエイトリフティングや陸上競技、それから弓道という限られた種目になっております。そのあたり団体競技を中心としてより幅広く有力な競技や選手を発掘して、国体の順位はもとよりですが県内の競技力の向上というものを、まずその新たな有力選手や競技を発掘するという意味からも向上に繋げていきたいなというふうに考えているところでございます。

◆事務局（体育健康安全課長）

ジュニア選手からの切れ目のない指導体制の整備ということなんですが、本県の場合、中学校までは県内で競技頑張っていただいているんですけど、高校になると県外の、特に私学の方へ進学するっていう生徒さんもいらっしゃいます。

ただ徳島県といたしましても指定校を設けまして、この競技はここの学校で、練習環境も指導者も集中して練習できる、というような環境というのを整えております。ですから、中学校の生徒に対しまして協会、連盟さんの協力をいただいて、ここの高校へ行けばこういう指導者の下、こんな先輩と一緒にこんな練習ができるんだというような体験会を開い

ております。そういう中で、県外の私学等と比べていただきながら県内でもこういう環境で一生懸命できるというようなことを知っていただく、という取組をしております。

こういう取組によりまして、ジュニアから中学校、高校、そしてまた大学社会人まで、一貫して育てていければなというふうに考えております。またそういう、県内の恵まれた練習環境であるとか指導者というのが、最近、県外の中学生にも割と広まっていくようになりまして、県外から徳島県の高校を選んで来てくれるというような競技も出てきておりますので、そういう意味で県内の選手も育てていきながら、県外の子も来ていただいて、そういう中で徳島県の競技力がより一層高まっていければなというふうに考えているところです。

◆事務局（スポーツ振興課長）

先程の補足をさせていただきます。「ジュニアトップ選手の県外の流出の防止」という部分について、閉鎖的ではないかというようなお話もございました。確かに、この県外への流出の防止に取り組みますという、この表現につきましては、閉鎖的と捉えられかねない表現にはなっているかなと再認識したところでございます。逆に県外からの受け入れも当然今後考えられるかなというようなところもありますので、この辺りの表現を工夫して考えてみたいと思います。委員や会長とも相談して、表現の方は修正の方向で検討したいと思います。いかがでしょうか。

○委員

ありがとうございます。

○委員

私も、体育健康安全課長さんの説明でよく分かりましたので、あそこまで詳しく書くかどうかは別として、修文した方が委員の質問に応えられるのかなと私自身も感じました。ありがとうございます。

○委員

私の方からは、修正一覧ＮＯ．２にあります「学校体育の充実」のところの「運動の楽しさを伝える」ということで意見を述べさせていただきます。スポーツが好きな子どもを増やすために前回の審議会で、幼少期は大変大切だということと、子どもの頃に体育が嫌いになったという子がいたというお話があったと思います。私の所属する連盟でも、表現やダンスの学習で子どもたちが体育を好きになるように授業の研究をしております。夏には県教育委員会の協力を得ましてダンス講習会を行ったり、秋には小学校、中学校、高校それぞれの校種で授業研究会を行ったりしております。その時に、授業をとおして児童生徒

が体育を好きになるといったこともねらいのうちのひとつなんですが、その他に若手の育成ということで、これからの体育の指導者を育てていくこともねらっております。これからも当連盟にいろいろとご協力いただけたらと思います。

その他にも前回の審議会の中で、「子どもたちが体育は好きなのにどうして体力がないんですか」という御質問があったと思います。私が現場の子どもたちを見ていて体験が不足しているなというのは強く感じます。学校体育での指導者派遣ということで、できたら一回だけ来ていただくのではなく継続的に来ていただくということと、しっかりと教えるというよりポイントやコツを子どもたちから分かるような感じで指導していただけたら大変ありがたいなと思います。

また環境という面では、やはりコロナ禍は大きな影響を与えたと私も感じています。子どもたち同士接触するからということで、外に遊びに行きたくてもなかなか外遊びが出来なかったりとか、熱中症の指数が高いということでプールの開放ができなかったりという学校がたくさんあったと聞いています。特に夏休みはコロナの関係や熱中症指数が高いということで、午後からプールが解放できなかったようです。やはりそういった子どもたちの周りの環境が、体を動かしたくてもできないというところもあるので、スポーツの施設が充実したところにお借りするとかして、子どもたちがしっかり体を動かせるような環境を整えていくことにもご留意していただけたらありがたいと思っております。これからそのような点に配慮していただきながら，長い目を持って子どもたちが元気に楽しく学習ができるようにしていただけたらと思います。

☆会長

ありがとうございました。回答はいいですか。

○委員

例えば、子どもたちに楽しさを伝えるということで、具体的にこれからこんなふうに進めようとしていることはありますか？

◆事務局（体育健康安全課長）

子どもたちにスポーツ・体育で運動することの楽しさを伝える方法についてご質問いただいたと思うんですけれども、今、お話の中にもありました「はつらつサポート」ですね、非常に学校の方でも、それから子どもたちの方でも評判いただいております。

それで、一回だけで終わらずに複数回来ていただきたいというお話もあったと思うんですが、確かに一回だけだったら楽しかっただけで終わってしまう部分があると思います。学校の先生方がやって、一回見て勉強したことをこれで本当に良かったのかなというのを確かめる為にも、複数回来て見ていただけるというのも大事なことだと思います。ですから、

このはつらつサポートに関しましては、来年度以降もできるだけたくさんいろんな学校で体験していただきますように、その中で体を動かすことの楽しさを子どもたちにしっかり体験させるとともに、小学校の先生方にいろんな体育の授業のやり方、楽しい体の動かし方について学ぶ機会をしっかり持っていただけるようにしていきたいと思っております。

○委員

資料４の推進計画の２３ページ「③ガバナンスコードの整備」には暴力とかハラスメント的なことも含まれていると思うんですけど、トップアスリートではなく、学校とか地域のクラブでスポーツを楽しんでいる子供たちに対して、暴力やハラスメントなど具体的にこんなことをされたら周りの人に相談してねとか、専用の窓口があるよといった案内は、どのような形で行われてるものなのでしょうか。

◆事務局（スポーツ振興課長）

例えば総合型地域スポーツクラブの中で、そういう指導者からのハラスメント的なことが起こった場合にどう対応していくのかというようなご質問だったかと思うんですが、今資料を持ち合わせていないので、推測で申し上げることはできませんが、そのあたりどういうマニュアル的なものがあるか、現状どうなっているのかというところを研究しまして、また委員にお知らせさせていただきたいです。少しお時間をいただけたらと思います。以上です。

☆会長

ざっとご説明します。スポーツ少年団はスポーツ少年団で、それから広域スポーツセンターは広域スポーツセンターで、ガバナンスコードを策定することが義務付けられています。県のスポーツ協会の方で取りまとめをして、定期的にガバナンスコードをチェックするというようなことをやっていますので、多くの意見については県のスポーツ協会、あるいは県の方に吸い上げが出来ていると思います。漏れている部分がないように、この後も努力をしたいと思っています。

○委員

先ほど委員さんからお話があったことで、体育健康安全課さんからもご説明があったのですが、当球団としてもはつらつサポートで県からお話いただいて、年間約４回訪問させていただいています。やはり単発で行くと、そのときの子供の反応で満足度は高いとは思うんですが、それが継続して子供のほうに残るかなといったら難しい部分があるのではと感じました。あとは、県から依頼をいただきまして行く回数にも県のご予算的に限りがあると思いますので、私たちの方で2020年に設立した一般社団法人があって、そちらの方で、

今計画段階ではあるんですが、来年の２月・３月から徳島県下の幼稚園・保育園を、全校で１０４校ほどあると調べているんですが、子供たちが幼少期からプロアスリートに会うことで、感動体験が小学生たちの知恵になれば、やってみたいといった気持ちにつながるのかなと思っていて、私たちはそういった活動を積極的にやっていこうと考えております。

あとは、トップアスリートを育てる、ジュニアアスリートに徳島に残ることを選んでもらえるような環境整備とか指導者の育成など、野球の観点にはなるんですがご協力できればなと考えております。

室内練習場の建設についても併せて進めています。ただまだ確定はしていないんですが、私たちの球団に入団していただいた選手に使ってもらって上を目指してもらう環境の整備も進めているのと、アカデミー事業を進めることで地域のアスリート、ジュニアトップアスリートに選んでいただく選択肢として存在できるように環境の整備を自発的にも進めているところであります。

先ほど他の委員さんからもありましたが、外を選ぶことはジュニアアスリートにとってより自分が魅力的で輝くことのできる場所を選ぶことで、自由だとは思うんですが、こっちに残らないというのはこちらに魅力を感じないというか外に魅力を感じてしまっているので、選んでもらう選択肢を自分たちが少しでも作っていくということで、県や他団体とタイアップしていろいろやっていきたいと、当球団としてはそういった取組を積極的に進めています。

もう一つは、中学校の部活動での先生の働き方改革の話についてなんですが、今、総合型さんから依頼をもらって、阿波市で試験的に、当球団から中学校に指導者を派遣してそこで４回指導するようなことをしています。１カ所は出来ているのですが、他の人とお話したときにプロアスリートが指導出来る予算がある行政、ない行政がある中で義務教育の部活動、運動というのが平等に機会が与えられないというのもどうなのかなという御意見もいただいたりしてます。まだ協議段階といったところは承知しているのですが、そういったことも決めていかなくてはいけないと思いました。

○委員

途中からにはなるんですが、お話を聞いていて気になった点をいくつか質問させていただきます。まずこのジュニアトップ選手の県外の流出の話がありました。今、大学も出来るだけ県内、県外ともに来ていただいていますが、県外から来てもらった選手が大学を卒業後に徳島に残っていただけたら、徳島県の競技人口や人口の増加につながるのではないかなと考えていて、県外の選手が徳島県に来て魅力的に感じる環境を整備していかなくてはいけないと感じているところです。国体や全国大会などでたくさん県外に行かせていただいているのですが、やはり県外の施設はすごく考えられていて、その地域に合った施設が作られているなと、利便性も含めてですけど。そういったアウトスポーツが心地いいなと

思ってもらえるように、実際に競技者の意見も参考にしていくのも手なのではないかなと思います。

コロナ禍や部活動の移行によってスポーツの環境がという話もありましたが、私たちも屋外のスポーツなので夏場の練習は日が沈むくらいから練習を行うことや、早朝に練習したりとかしています。なので、夜遅くまで使えるような施設があったらいいなと思うところと、あとはやっぱり屋内の施設でいいものを整備する。石垣島など雨の多いところに行くと、雨が多いので屋内施設が充実しています。屋内の施設の充実を図ることも夏場や雨天時、寒い時もそうですけれども、そういうスポーツがどんな時でもできる環境というのが狙いの施設ももっとあったらいいなと思いました。

それから、例えば陸上だったら子どもの体力向上を専門的に指導している施設とか、「この人に教えてもらったらいいよ」、「この団体がこういうことをやっているよ」みたいな情報が地域の方たちに分かる資料などはあるのでしょうか。

☆会長

指導者バンクは今どんな状況ですか？

◆事務局（体育健康安全課長）

どの指導者がどの程度いるのかというご質問かなと思うんですけれども、県教育委員会が持っております部活動指導者の人材バンクでは現在８６名が登録していただいておりまして、これにつきましては各市町村の教育委員会とデータを共有するようにしております。その中で中学校の部活動で指導者が必要な場合に、こういう指導者がどこの市町に住んでいて、どの競技が指導できるかというようなことに関しては、情報共有できるようなシステムをとっているというようなところです。

〇委員

ありがとうございます。私も元々県外の出身者なんですけれども、やっぱり県外の選手が徳島に来て、競技したいなとなったときに、最初はどこに行ったらいいのかとか、どこにどういう施設があるのかっていうのが分からなかったりすると思います。そういうところを教育機関だけじゃなくって、企業さんだったりとか団体だったりとか、他の企業さんがこういうイベントを年に一回ぐらいやってますよとか、陸上競技だけじゃなくていろいろ各スポーツ団体、スポーツ競技の方に一覧があったら、大学でも陸上だけじゃなくて、弓道だったり、サッカーだったりラグビーだったり、色々そういうイベントしたりとか強化したりとかこういった施設がここにありますといったものがあったら、地域の人もスポーツのいろんな情報を知ることができるんじゃないかなと思います。ご回答ありがとうございました。

○委員

若手の有力選手の流出というのは、サーフィンの方でも全く同じことが起きてます。一番の原因は、やっぱりスポーツ選手、プロの選手になって活躍する大会・会場が四国にないということです。基本的に、サーフィンの業界は関東が中心になっています。JPSAといった日本プロサーフィン連盟というものがあって、そこの理事とか中心人物、運営の人がほとんどみんな関東の人達っていうのもあるし、選手が実際多いのも関東なので、オリンピックが開かれた千葉県の釣ヶ崎海岸という海岸や、湘南とか北関東を中心に。西日本だと唯一九州の宮崎ですね、年間のツアーだと。昔は四国でも徳島というか、僕の家の隣町、東洋町は、高知県、徳島県が合同で会場利用してやったりしてたんですけど、今徳島、四国の人が理事にいないというのもあって、たぶん声が薄まっているんです。本当に業界も協会も選手もみんな関東を中心に動いちゃってて、プロは試合回らないといけないので、マイノリティなので余計に全試合まわらなきゃいけないし、仕方ないですよね。徳島で、四国でどうこうしようとしてもやっぱり関東中心になっちゃいます。移動費、経費、労力全て、四国にいるともうすごい不利なんですね。これは、もう僕はJPSAの組織に直接伝えていくしかないかなと思ってるんですけど、いかんせん小さな組織で、マイノリティなスポーツ業界ですし、やっぱり田舎からの声が小さすぎてなかなか組織を動かせないので、どうしようもないなっていうのが現状です。

ただ、流出するのは仕方ないけど、ここで育った選手を応援している地元のサーファー、地域の人もいて、オンラインで今アメバTVとかで見られるんですけど、結構な視聴率見ています。実際生で選手を応援したいということすら叶っていないので、年に一戦ぐらい頑張って呼びたいと思ってます。そこはスポンサーの、サーフィンでいうとさわかみファンドというところがメインスポンサーなんですけど、そこの代表と何度かお会いして訴えてはいます。スポンサーの企業や組織ですね、あとは徳島県サーフィン連盟で声一つにまとめて。そこに行政が入ってくれるとより説得力があるんですけれども。そういったスポーツを構成している組織とか、あとはスポンサーのお金を出資しているところですね、そこに直接的に働きかけていく、意見していく。徳島県海陽町って全国でも、小松海岸、鳴門から海陽町にかけてサーフィンとしてはすごいフィールドなので、そこで高校まで、中学校まで人を育てて、そこで育った子たちが全国で今、今年のJPSAに関しては海陽町体育協会サーフィン部にもともといた金澤呂偉くんがグランドチャンピオン、西けいじろうくんが２位で年間でもすごい結果を出している人たちがここから出てるんです。トップ選手がここ出身なのになぜその彼らを輩出した育てたこの地域であり、我々が彼らを活躍する場をこの場所で構えられていないのかというのは、やっぱり議論していかなきゃいけないっていうのをずっと思ってますし、それで僕らも微力ながら動いてるんですけども。だから一戦くらいは誘致を頑張りたい。プロもしたいです。

後は、できればこっちを拠点に活動してほしいというのもあるんですが、業界の現状見て

ても、選手たちにとって現実的にそれは難しい。長い目で見てそれを変えていくには、お金を集める、人を集めるのが絶対大事なので。それがないと、サーフィンの世界でいっても選手をここに留めるっていうのは、今全体的な業界を見て無理だなっていうのはある。

そこで必要になってくるのが、僕よくこの場で発言させていただくんですけど、スポーツだけで考えたら無理ということです。例えば今動いているのが食、エネルギー問題、環境問題。スポーツの業界も、スポーツだけで世の中にこの価値を伝えるって無理です。そこで地方が有利になれる手段が、環境の問題や、豊かな食があるっていうところです。スポーツ選手の食事面はすごい大事なんで。今、肉食よりも菜食の方がいいとかファスティングをするとか、トレーニング以外の食の部分の見直しがされているんですけど、そこで必要になってくるのが安心安全な食とかになってくるんですね。そのためには一次産業の土壌がしっかりしていたり、環境問題のこととかもあります。僕の先輩で、今年からJリーグの理事でビジネス環境のリーダーになった辻井隆行さんという方がいるんですけど、Jリーグでは組織で、環境教育を実践したりしています。そういったところから、徳島の魅力をこの県内であり全国に伝えていくっていうのは多分、スポーツ以外の文脈から伝えていくしかない。長い時間がかかると思いますけど、これをやっていかないと若い人たちを徳島に留めることは、スポーツに限らずあらゆるジャンルで難しいと思います。

○委員

まず計画のところは、今回改めてしっかりと読ませていただいて、非常にこう上手くまとまっていて良いなと思ってます。特に一番右の案の中の「ふれあいとくしま」のところで、まちづくりとか地域活性化とかの部分が、私のクラブとしても足りてないなっていうのを改めてこれを読んで再認識したといいますか、クラブの中でもこれをちゃんと認識している人間が果たしてどれだけいたのかなっていうのを感じまして。持ち帰ってしっかりともう一回認識を合わせていきたいなというふうに思いました。

県外流出の話がずっと出ていましたが、解決策というのが難しいと思うんですけど、ちょうど今、先の委員さんがおっしゃっていただいたんですが、スポーツだけ、サッカーだけとかだとやっぱり限界があるんだなぁっていうのは思ってまして、そこにいかにこう徳島ならではの文化とか、さっき食という話もありましたけど、そういうものをいかに絡められるかっていうのが、都市圏に対抗するには大事なんじゃないのかなっていうのは凄い感じています。

私は今年の１月に徳島に来たばかりで、それまで東京に居たんですけれども、徳島は自然もそうですし、独自の文化、例えばお接待、四国遍路とかありますけれども、そういう文化もありますし、県外出身者だからこそ余計に感じるのかもしれないけど、本当に徳島っていいところだなというふうに感じています。そういうのを絡めてやっていければなというのは、本当に当クラブとしてもまだまだ全然できていないので、スポーツツーリズムと

かこれまでさせていただいて、まだまだだなというふうに感じていますので、実行していきたいなと思ってます。

〇委員

パブリックコメントに野球や、サッカー部の学生が強豪校と試合を開催したいみたいな意見が見られたんですけど、ここは私自身結構大事にしたいなって感じました。私自身も去年まで、高校球児で部活動をさせていただいたんですけど、私が学生の時はコロナの影響で部活もできなかったし、仲間にも会えないことや甲子園目指せないといった、結構部活動の意義とは何かみたいな状況ができてしまったんですけど、最近は少しずつコロナの方も改善してきて、甲子園や全国大会が開催されている中でこのように強豪校と試合が出来る環境っていうか「強化費を助成して」って書いてくださったんですけど、強化費も大切なんですがその機会を県が試合できる機会自体を作ることが、コロナで下がっていたモチベーションの向上や、競技力の向上につながるんではないかと私は感じました。

もう１つは「ふれあいとくしま」の推進というところで、先ほど委員の方のご発言で、小中学校で何かイベントをするみたいな意見があったんですけど、私自身も小中学生の時にインディゴソックスの野球教室の方に参加させていただいたことがあって、すごく野球っていうスポーツが、プロの選手と交流させていただいたことで改めて好きになりました。インディゴソックスはクラブ活動の一環で交流させていただいたんですけど、小中学校の授業というか課外授業みたいなようなもの、例えば僕阿波出身なんですけど、阿波市の小学校いくつかが合同でインディゴソックスや徳島ヴォルティスのようなプロの選手と交流できる場ができたら、最近スポーツの人口、小中学生の人口が減ってきてクラブチームの人数不足の問題があると思うんですけど､そういう授業でプロの選手と交流できることで、何か運動を始めてみようと思うきっかけになって、問題が改善されてくるのではないかとも思いました。

☆会長

ただ今、各委員さんから貴重な御意見をいただきました。本日いただいた意見を元に「答申」を作成したいと思います。文言の記載・修正について、私に一任させていただいてよろしいですか。

ありがとうございました。それでは最後の議事「その他」についてですが、事務局から何かありますか。

◆事務局

「第３期徳島県スポーツ推進計画」策定スケジュールについて説明

閉会